

(3) 北 関 東



北関東地域では、景気は回復している。

- ・ 鉱工業生産はこのところ横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は緩やかに回復している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

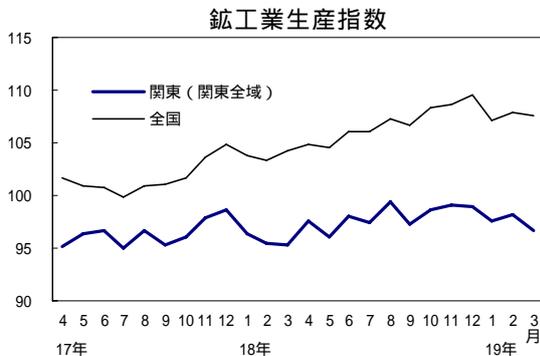
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 19 年 2 月)	今回 (平成 19 年 5 月)	
生産	緩やかに増加	このところ横ばい	
住宅建設	増加	減少	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はこのところ横ばいとなっている。(関東全域)

一般機械は、プレス用金型は好調であったものの、半導体製造装置が伸び悩んだため、おおむね横ばいで推移している。化学は、フェノールなどの樹脂原料や合成洗剤が好調であったものの、カラーロールフィルムが低調であったため、おおむね横ばいで推移している。輸送機械は、乗用車に使用する駆動伝導操縦部品が、前期の反動で振るわなかったため、4 四半期ぶりに減少している。情報通信機械は、大型コンピューターが減少したものの、携帯電話の新規モデルが好調であったため、増加している。電気機械は、医療用 X 線装置が好調であったものの、半導体 IC 測定器の海外需要が不調であったため、減少した。



- (備考) 1. 12年=100、季節調整値。
2. 平成 19 年 3 月の関東は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

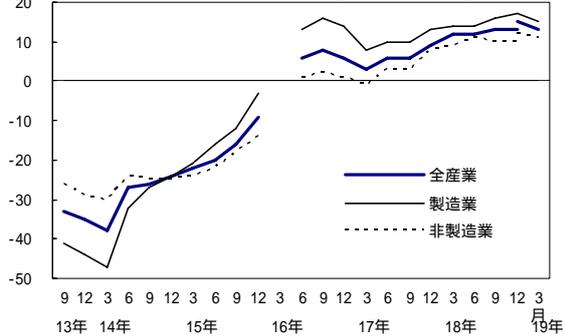
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
一般機械	13.8	1.6	0.8	1.3	0.5
化学	13.7	0.7	1.0	0.6	0.2
輸送機械	11.3	3.7	4.4	3.7	1.7
情報通信機械	8.6	5.5	5.8	4.5	9.6
電気機械	7.9	3.7	5.3	5.3	6.6
鉱工業	100.0	0.9	1.4	1.8	1.1

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い 15 業種。
2. 1~3 月期は速報値。
3. 1~3 月期の化学の生産、出荷は、1 月、2 月確報値の平均より算出。在庫は、2 月確報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]

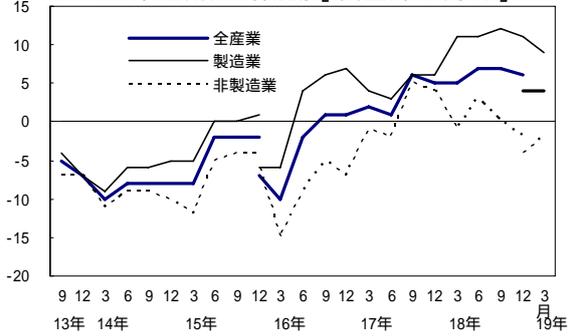


(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。

旧基準は15年12月まで。新基準は16年6月から。

18年12月は新・旧基準を併記。関東全域(新潟県を含む)。

(%ポイント)企業短期経済観測 [資金繰り判断]

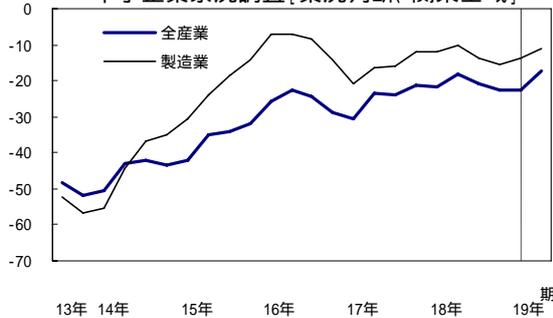


(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。

15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。

15年12月までは関東全域、以降は日本銀行前橋支店管内。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断、関東全域]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。19年 期は見直し。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

「大河ドラマの影響で来県者が増加し、ワイナリー全体の売上は順調に伸びている。ただし、関連商品を持っている所とそうでない所との差が生じている(食料品製造業)」など「やや良くなっている」とする回答が多くみられた一方で、「当業界の会合に参加したが、忙しい状況だと聞いている(一般機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答もみられた。

(3) 18年度の設備投資は前年度を下回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

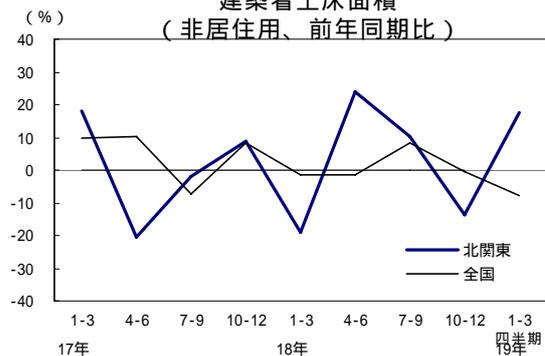
(前年度比、%)

	18年度実績見込み	19年度概
全産業	2.9(0.6)	1.0
製造業	33.4(0.4)	3.4
非製造業	31.6(0.9)	2.7

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。

調査対象は日本銀行前橋支店管内。

建築着工床面積
(非居住用、前年同期比)



(3) 北関東

2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに回復している。

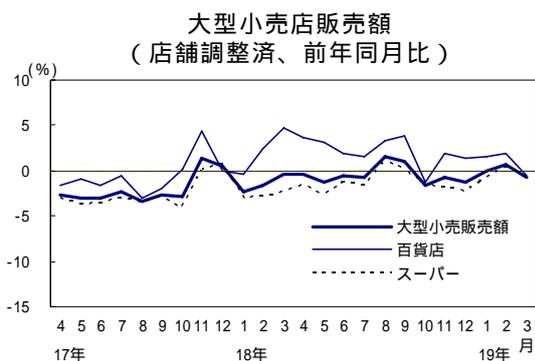
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、1月は、暖冬の影響から冬物セールへの客足が伸びず、衣料品が不振であったものの、移転改装効果の継続により、アクセサリー等の身の回り品が好調であったため、前年を上回った。2月は、引き続き身の回り品が好調であったことに加え、バレンタインなどの催事効果により飲食料品も伸びたことから、前年を上回った。3月は、中旬以降気温が低下し、婦人服などの衣料品の動きが鈍ったことや、身の回り品が振るわなかったことから、5か月ぶりに前年を下回った。

スーパーは、バレンタインやひな祭りなどの催事効果で飲食料品が好調であったものの、暖冬や春先の天候不順により、衣料品が伸び悩んだことから、全体としては前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

「住宅ローン金利の上昇傾向により客が動くかと期待していたが、現実にはほとんど変わっていない(住宅販売会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

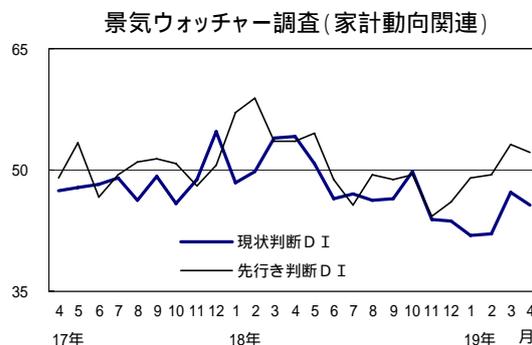
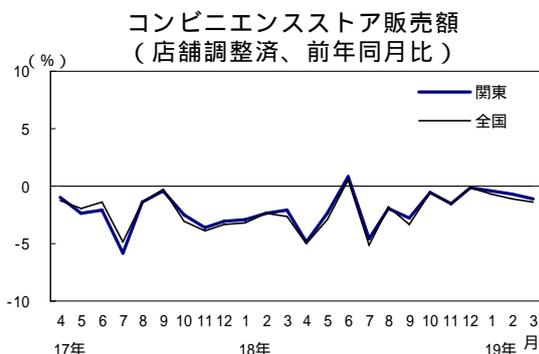


(前年同期比、%)

	18年4-6月	7-9月	10-12月	19年1-3月
大型小売店	0.7	0.6	1.2	0.1
百貨店	2.9	2.7	0.7	0.9
スーパー	1.9	0.1	2.0	0.4
コンビニ	2.2	3.1	0.7	0.7
景気ウォッチャー	50.4	46.6	45.7	43.8

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。19年1-3月期は速報値。コンビニは関東全域。

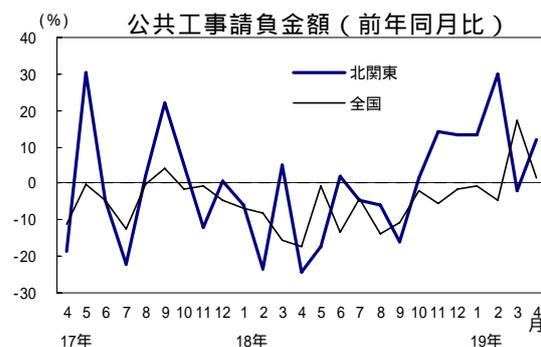
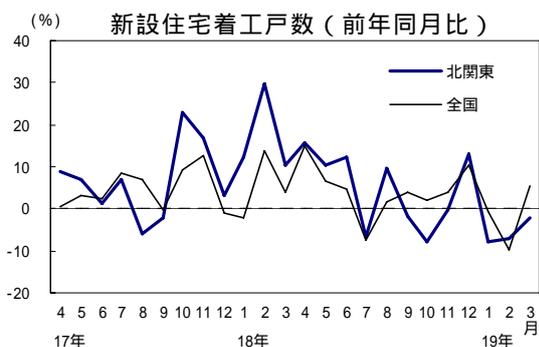
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は減少している。

持家、貸家が前年を下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は18年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

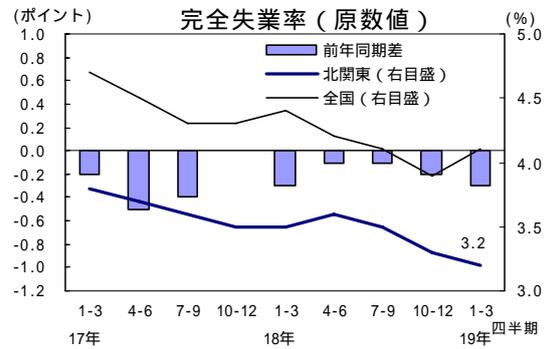
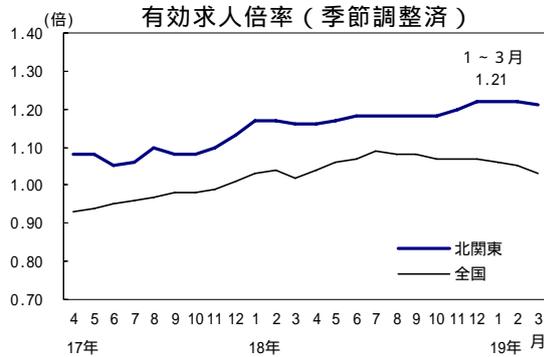


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (4月)[雇用関連 (現状)]

「求人数自体は増加しているが、募集理由は欠員補充が多く、派遣求人の増加の影響も受けている。中小零細企業からの求人申込は減少傾向を示している (職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

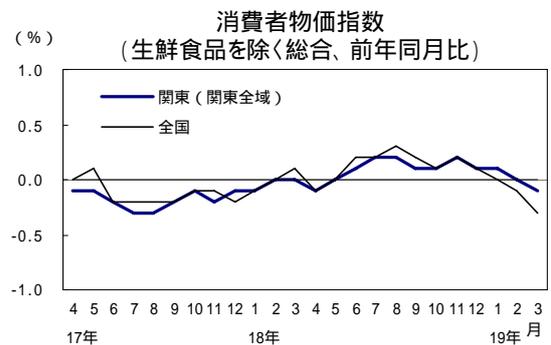
(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

4月に倒産件数が大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	18年4-6月	7-9月	10-12月	19年1-3月	19年4月
倒産件数	153	157	191	209	75
(前年比)	7.8	4.7	20.9	13.6	31.6
負債総額	944	819	1,406	1,119	423
(前年比)	6.9	7.7	40.6	18.3	26.4



景気ウォッチャー調査 (4月)[合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・今まではチラシを出せばある程度客が来たが、最近は本当に安い目玉商品がないと来てくれない。オイル交換などの特典をつけても来なくなっている (乗用車販売店)

<先行き>

・雪に携わる業種の方は例年5~7月に旅行をするが、今年は雪不足で収入が減少しており期待薄である。農家が多い地域であり、冷夏になると一段と厳しくなる (旅行代理店)

景気ウォッチャー調査 (合計)

